

頁	行 (↑↓)	誤	正
2	表(1.1) 化学試験	粘度鉱物	粘土鉱物
2	表(1.1) 透水試験		JGS
3	表(1.2) サンプリング	ロータリー式スリーブ	ロータリー式スリーブ
3	表(1.2) 現地計測	変位坑	変位杭
3	表(1.2) 原位置試験	坑の	杭の
4	↓8	1997年6月	1997年11月
10	図(1.3) 上部左右	C D	トル トル
10	図(1.4)	測定番号(m)	測点番号(m)
20	図(1.10.a)	初期間隙比 f_0	初期体積比 f_0
21	↑3	標準貫入試験機	標準貫入試験器
22	↑10	技術者としてのこの	技術者としてのこの
23	参考文献 ↑3	8) 地盤工学会編	8) 土質工学会編
23	参考文献 ↑2	Judgment	Judgement
47	↓1	図-2.8	図-2.13
59	表(2.13)	表-2.13	表-2.4
63	表(2.4)	表-2.4	表-2.5
76	図(2.51)	こね返し特性 ¹⁸⁾	こね返し特性 ¹⁷⁾
170	表(4.2) ↑11	振 幅 小 大	振 幅 大 小
171	表(4.3) 最上段4欄目	空白	$\tau_{max,l} / \sigma' c'$
175	式(4.4)	$R = C_1 \cdot C_2 \cdot C_5 \cdot R$ (4.4)	$R = C_1 \cdot C_2 \cdot C_5 \cdot R_l$ (4.4)
187	↑2	高さ 600m	高さ 600mm
188	↓7	全面の置換部	前面の置換部
197	図(4.36) 右縦軸	減衰定数 h	履歴減衰率
198	図(4.37)	(土岐ら ⁶⁶⁾)	(土岐ら ⁶⁰⁾)
200	↓1	試験装置(図-4.2の中の繰返し…)	試験装置(繰返し…)
206	↓3	求めた G が	求めた G_0 が
213	↑2	提案されている。	提案されている。 ⁸⁰⁾
229	↓9	…粘土層の圧縮性分布が推定できる。	…粘土層の圧縮性の分布の補間や推定ができる。
235	↓5	① $\xi_u < \xi_l$	
235	↓11	② $\xi_u > \xi_l$	
235	式(5.13)	$z_0 = \int_{\xi_v}^{\xi_u} \frac{1}{m v \gamma' + v_0 / c_v} d \xi$	$z_0 = \int_{\xi_u}^{\xi_v} \frac{1}{m v \gamma' + v_0 / c_v} d \xi$
242	↓1.7	H^2	H^2
243	↓2	H^2	H^2
243	↓10	C_a	C_a
247	脚注 ↓3	通常は ε が…	通常は $\bar{\varepsilon}$ が…
249	図(5.26)	自重 + → 自重 + 5	自重 + 1 → 自重 + 5
263	↓2	载荷中	载荷量
268	文献 38)	(c_v)	(C_v)
269	文献 44)	Determination	Determination
365	図(7.41)	横軸のN値 15, 20	横軸のN値 20, 50
375	↓2	圧入させることによって、先端部	圧入させ、その時
375	↑2	コーン貫入試験は	静的コーン貫入試験は
375	↑2,1	1974年のコーン貫入試験に関する最初の	1974年の最初の
376	↓2	その後、この試験の普及に合わせて1988年からは	その後、1988年からはこの試験の普及に合わせて
377	↓9	地盤の電気抵抗、振動伝播速度のような	電気抵抗、振動伝播速度のような地盤の
379	↓7	充実させて、試験を	充実させて試験を
379	↓8	多種の試験装置を搭載し、	他種の試験装置も搭載し、
379	↑10	提案したこともこれにあずかっている	提案したこともあずかっている
385	↓5	後述のように	後述のように、
385	↑1	測定される傾向にある。	測定される。
386	↑8	コーン貫入に伴って土の体積が	コーン貫入に伴って周辺の土の体積が
389	↓12	直上でロッドと	直上で測定管
389	↓14	これがロッド	これが測定管

391	↑15,16	しかし, まだ, メカニカル	しかし, メカニカル
391	↑14	利用される機会も多いので	利用される機会もまだ多いので
392	↓1	メカニカルコーン	ダッチコーン
393	↓2	両者の比が, qc 値	両者の比が, メカニカルコーンによる qc 値
396	↑6	コーン貫入抵抗を土質工学的に解釈するに	コーン貫入抵抗の土質工学的解釈に
397	↓2	現状のように	現状と
404	↑6	土質名のデータ	土質名, 土性データ
406	↓4	この Nk の平均値は	この Nk は
407	↓2,3	凡例に2および3	凡例にIIおよびIII
407	図(8.29)	qc と Tf の関係 「一面せん断試験による場合」	qc と Tf の関係 (一面せん断試験による場合)
407	↓4	Iグループの	Iグループの
409	↑8	R_1	R_1
409	↑6	R_1	R_1
409	↑4	(例えば, 57), 58)。	(例えば, 文献57), 58)。
410	↓10	$D_{50}=0.25\text{mm}$	$D_{50}\geq 0.25\text{mm}$
410	↑9	R_1	R_1
410	↑9	これは通常行われ	これは, わが国で通常行われ
410	↑8	R_1	R_1
410	↑4	R_1	R_1
411	↓3	また, σ_m, σ_v は	また, σ_v', σ_m は
411	↓4	uw は静水圧で,	uw は静水圧,
412	↓2	$Q=qc \cdot A + \bar{q}c/200 \cdot A_s$	$Q=qc \cdot A + \bar{q}c/200 \cdot A_s$
416	↓2	左側の3か所	左側の3種
416	↓4	2かの深度分布図, u_d/qc および f_s/qd の深度分布図が	2種の深度分布図 (u_d/qc および f_s/qd の深度分布図) が
421	文献 4)	第30回土質工学研究発表会, 1995.	第30回土質工学研究発表会, pp.285~286, 1995.
421	文献 11)	penetration testing	penetration testing
421	文献 14)	(社)土質工学会, 1979.	(社)土質工学会, pp.91~135, 1979.
421	文献 18)	p.162, 1992.	pp.161~162, 1992.
422	文献 19)	p.886,	pp.883~888
422	文献 32)	第24回土質工学研究発表会, 1989.	第24回土質工学研究発表会, pp.199~200, 1989
422	文献 37)	1st ISOPT, 1988	1st ISOPT, pp.887~893, 1988.
423	文献 38)	San Diego, 1984.	San Diego, pp.41~54, 1984.
423	文献 39)	ISOPT-1,	1st ISOPT
423	文献 46)	第27回土質工学研究発表会, 1992.	第27回土質工学研究発表会, pp.151~154, 1992.
423	文献 47)	第28回土質工学研究発表会, 1993.	第28回土質工学研究発表会, pp.293~296, 1993.
423	文献 52)	第23回土質工学研究発表会, 1988.	第23回土質工学研究発表会, pp.147~150, 1988.
423	文献 54)	第22回土質工学研究発表会, 1987.	第22回土質工学研究発表会, pp.91~94, 1987.
423	文献 55)	第2号, 1980.	第2号, pp.2~4, 1980.
424	文献 57)	No. 3, 1980.	No. 3, pp.458~482, 1983.
424	文献 58)	No. 3, 1985.	No. 3, pp.384~403, 1985.
424	文献 59)	第21回土質工学研究発表会, 1986.	第21回土質工学研究発表会, pp.833~836, 1986.
424	文献 60)	Testing, ISOPT-1, 1988	Testing, 1st ISOPT, pp.785~791, 1988.
424	文献 63)	第23回土質工学研究発表会, 1988.	第23回土質工学研究発表会, pp.163~164, 1988.
424	文献 65)	p.223,	pp.223~226,